

# 研究開発プログラム全体の体制図 (ImPACT研究開発推進コア)

## ImPACT研究開発推進コアの役割

### 当該プロジェクトに適した選定・評価・管理方法

第1回目の時間軸上・要素毎のマネジメントループで、小課題の積み上げにより全体の実現可能性を把握し、2回目以降のループで、目標達成するための加速化と実効性の担保のため、必要に応じて、同系統の機関・企業を同時並行で参加させ、6ヶ月程度を目安に契約を繰り返す。

通常の公募を実施する場合、応募してきた企業に対して、計画書やプレゼンだけでは、どの程度の研究開発能力を有しているかを十分に把握することはできないが、プロジェクト開始のタイミング等もあり、応募企業の中から採択することになる。採択された企業に対して、従来のような全期間に対して研究開発を委託することはリスクが高く、このような公募方式では契約上PMがメンバーの入れ替え等を実施しづらく、期間終了後に本プログラムで求められる成果が得られるか否かの確証は得にくい。

上記のような問題を回避するため、小規模かつ手探りでの研究開発を進めながら、研究開発を実施するために必要な小課題・要素を適宜設定し、委託候補企業と打ち合わせを進め、課題達成の可能性を考慮して必要に応じてオンデマンドで委託研究開発契約を結ぶことを考えてきた。個々の小課題・要素を担当する企業の課題達成を定期的に評価して、研究開発の状況に応じて強化や入れ替えを行う必要があるが、個々のプロジェクトを担当する企業を採択し期間終了まで委託する方式では、PMはPLの役割を果たす企業の入れ替えを行うことが極めて困難である。

オンデマンド型コンペ方式の利点は、小課題・要素を達成することになるPLをオンデマンドで指名し、プログラム全体の最適化をPMがマネージできることにある。そのため、段階に応じて、同系統の機関・企業を同時並行で参加させ、6ヶ月程度の短期間で契約を繰り返すこととする。本プログラムで準備されたImPACT研究開発推進コアでは、まさにプログラム全体をPMが中心となってマネージできるように手探り案件に関しても、小課題・要素に対して第1回目のサイクルを構成するために、それぞれの課題に対してオンデマンドで研究開発推進をマネージできることが望ましい。現行の手順では、小さな案件に対しても機関選定の承認を得るプロセスを経なければならないため、一旦、委託候補機関をリストアップすることとした。今後、候補機関に関しては、必要に応じてオンデマンドで、追加・入れ替え・強化を実施することも想定している。

